

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4073500243
法人名	社会福祉法人 千草会
事業所名	認知症高齢者 グループホーム マイネスハウス ひなた庵
所在地	福岡県糸島市高上袖ヶ原171番地 (電話) 092-329-1500

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H21年 8月 28日
評価確定日	H21年 9月 29日

【情報提供票より】 (平成21年8月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	14 人
常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 13.5人

(2) 建物概要

建物構造	準耐火鉄骨 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 1ヶ月 1500 円
	または1日当たり	1,300 円	

(4) 利用者の概要 (平成21年8月12日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	4 名	要支援2	0 名
年齢	平均 90 歳	最低 64 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 太田脳神経外科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山を一望する風光明媚な高台に位置し、特別養護老人ホームに併設された平屋建ての事業所である。敷地内には池や菜園が設けられ、緑と花で彩られている。居住空間は木の温もりを活かした家庭的で暖かみのある和やかな雰囲気である。利用者の尊厳を重視し、「地域の中で生き生きと暮らす」という理念を掲げ、利用者主体のサービス提供や地域交流を管理者や職員が一同となって心がけ実践している。地域との交流も極めて自然体で活発に行われており、近隣住民と顔なじみで親密な関係が構築されている。医療機関とも密な連携を取り、重度化が進む中でも安心して過ごせる体制となっている。毎日の生活を楽しむことができるよう季節感あふれる催しの企画も充実している。介護計画や記録も適切になされている。利用者の状態に応じて発語訓練や機能訓練を行う等の取り組みもある。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はないが、よりよい事業所を目指し、自分たちで課題を見出して改善計画を立て、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員の意見を聴取し、管理者が集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催している。委員が率直に意見や要望を言えるような関係作りに努めている。リハビリや認知症予防についての意見や要望があり、日頃のケアに結びつける取り組みを行っている。会議録を作成している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を設置している。職員は、家族が来訪時に意見や要望を気軽に表出できるよう雰囲気作りや声かけに努めている。事業所便り送付時には、担当職員が利用者の健康状態や暮らしぶりを個別に記載している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会や自治会に加入し、近隣の保育園、小学校、中学校と交流がある。定期的に茶道・メイク・マッサージ等、ボランティアの訪問がある。地域行事へ参加し、また事業所主催の夏祭りや文化祭に地域住民の参加がある等、地域と交流することに積極的に努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に「地域の中で利用者が生き生きと生活する」、「地域との交流」等、地域密着型の視点がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をミーティング時や全体会議だけでなく、随時機会があるごとに確認し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や自治会に加入し、近隣の保育園、小学校、中学校と交流がある。定期的に茶道・メイク・マッサージ等、ボランティアの訪問がある。地域行事へ参加し、また事業所主催の夏祭りや文化祭に地域住民の参加がある等、地域と交流することに積極的に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員の意見を聴取し、管理者が集約している。前回評価での改善課題はないが、よりよい事業所を目指し、自分たちで課題を見出して改善計画を立て、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催している。委員が率直に意見や要望を言えるような関係作りに努めている。リハビリや認知症予防についての意見や要望があり、日頃のケアに結びつける取り組みを行っている。会議録を作成している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との連携を密に取り、サービスに関する課題の話し合いを行い、課題解決に向けた協働を行っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について内部・外部研修で学ぶ機会を設け、報告や伝達研修で共有化を図っている。家族には入所時や必要時に説明している。テキスト・研修記録・報告書がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年3回、事業所便りを発行し、担当職員が個別に利用者の暮らしぶりや健康状態、行事の様子等を報告している。家族来訪時に状況を報告し、緊急時は電話で対応している。金銭管理については、原則行っていない。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。職員は、家族の来訪時に意見や要望を気軽に表出できるよう雰囲気作りや声かけに努めている。また、家族等へ入所事業所や折に触れて、事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えるように努めている。ユニット間で日常的に交流し、職員が代わる際は引き継ぎの期間を十分取る等、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等に関係なく適性を重視している。ユニット間で能力や経験年数のバランスを取るよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>利用者に対する人権を尊重するための内部研修を行っている。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書がある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は、職員が段階に応じた研修を受ける機会の確保に配慮している。内部・外部研修ともに報告書を作成して会議等で報告し、全職員で共有化を図っている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者ネットワークに加入し、管理者や職員は定期的に参加している研修会へ参加している。他事業所と相互に意見交換等を行い、サービスの質の向上させていく取り組みをしている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に見学や体験入所、職員による自宅訪問等を行っている。サービス開始時は利用者の意向やペースを尊重し、集中的に見守りや観察を行っている。また、コミュニケーションを密に図る等、徐々に事業所に馴染めるよう工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理や菜園作り等を共に行い、職員が知らない知識や技を利用者から教えてもらう場面がある。利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの希望や意向を本人の言葉や表情、行動等から把握している。意思疎通が困難な場合は、家族から聴取した生活歴等を参考にす等、本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1回の全体会議や半年に1回のカンファレンスを通して本人、家族、職員の意見を聴取し、個別具体的な介護計画を作成している。家族の署名、押印がある。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に1回、介護計画の見直しを行い、状態が変化した時はその都度、本人、家族、職員間で話し合い、見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者の入院時には職員が見舞い、家族及び医療機関と協議しながら早期退院へ向けて取り組んでいる。通院や送迎は、家族の希望等必要に応じて柔軟に対応している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切にし、かかりつけ医又は24時間対応の協力医での受診を支援している。状況は、家族に電話で報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について事業所独自の方針がある。入所時や折に触れて、本人、家族へ説明している。家族、かかりつけ医、全職員で話し合い、方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを尊重し、言葉かけや対応に配慮している。プライバシーに関する記録の保管を徹底している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかなスケジュールはあるが、一人ひとりのペースやその日その時の希望を大切にしながら散歩をする等、希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けをしている。菜園の野菜を一品取り入れ、楽しく会話しながら食事をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や希望にあわせて、柔軟に対応している。入浴拒否する利用者に対しては、声かけやタイミングを工夫して、入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者のできることや得意なことを把握し、調理、野菜作り、菜園の水やり、らっきょうや梅酒作り等、楽しみごとも含めて一人ひとり支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	四季それぞれの変化に合わせて花見や見学、散歩、地域行事に参加する等、一人ひとりの希望にそって戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、近隣住民に声かけや見守りを依頼している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。年2回、消防署の協力を得て母体法人与合同で避難訓練を実施している。緊急通知装置により消防団へ連絡が取れる体制を整えている。地域住民に参加協力を呼びかけている。非常用食料・飲料水を準備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。利用者の好みを活かした献立表を作成し、定期的に栄養士からアドバイスやチェックを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は2ユニットが池を中心にした中庭を囲み、回廊になっている。ガラス戸にはよしずを設置して光や風を調節し、床面は堀こたつの応接セットやソファ、椅子等を設置し、利用者の好みに応じた居心地のよい工夫がなされている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や調度品・仏壇等が置かれ、清潔で個性的である。家族が宿泊できる居室もあり、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。